

平成20年度「専修学校を活用した再チャレンジ支援推進事業」成果報告書

プログラム名	若者の再チャレンジ支援プログラム		
事業名	夜間における『スイーツショップ』起業に向けての支援プログラム		
法人名	学校法人 大阪学院大学		
学校名	関西健康・製菓専門学校		
代表者	理事長 白井 善康	担当者 連絡先	石原 淳行 Tel 06-6358-5000

1. 事業の概要

米国のサブプライムローン問題に端を発する経済環境の変化に伴い、企業業績が急激に悪化し、労働環境についても厳しい状況が生まれている。かつての就職氷河期において正社員として就職できなかった30歳前後の若者は、未だ専門的な技術を持たないままにフリーターやニートとして、社会生活を営んでいる。これらの若者に対して、専修学校が持つ高度な知識と技術を体系的に教育することによって、正社員としての就職を手助けするために有効なカリキュラムの開発を本事業は目的としている。特に、製菓のような専門的技術は、経営の知識と融合することによって、将来自分で店舗を持つことも可能であると思われる。関西健康・製菓専門学校では、グループ校である関西経理専門学校と協力することによって、できるだけ短期間に知識と技術を習得できるカリキュラム開発に努めてきた。そして、本事業によって開発されたカリキュラムにより教育を実施することで、少しでも多くの若者に社会で活躍できる能力を身につけることができたのではないかと考えている。

2. 事業の評価に関する項目

①目的・重点事項の達成状況

製菓に関しては、スイーツショップ起業に向けての基礎的な知識と技術を習得できたと考える。今後、実務において職業訓練を積むことにより、短期間でオーナーパティシエとして活躍できる能力を習得できたといえる。また経営実践に関しては理論的なマーケティングの考えだけでなく、ケーススタディによる実践的な講義を受講したことにより、具体的な起業準備や販売の手法についても学ぶことができた。経理実務に関する講義では、帳簿の付け方や確定申告の方法など、起業後にもっとも問題となる部分について受講生たちの知識が深まったのではないかと考える。そして最後にPCの知識は、会員証の作成やチラシ作りなど実際の業務に直結した利用法などもあり、その役立ちは計り知れない。このような本事業での教育は、当初の計画において想定した学習効果の域をはるかに超えるすばらしい実績を残せたのではないかと考えている。

②事業により得られた成果

本事業は、ニートやフリーターとして社会生活を営む若者に対して、正社員として就職するために有効な技術と知識の習得をめざしたカリキュラムの開発を目的としていた。7ヵ月(150日間)に及ぶ実証講座においては、15名の受講生に対して「製菓理論と製菓実習」、「コンピュータ実習」、「経営実践と原価管理」の3つの分野について実践的な内容を体系的に教育できたと考えている。本事業の成果は非常に多岐にわたるが、その内容は次のようなものとなっている。

◆ カリキュラムの開発

150日間、合計450時間に及ぶ講義に関してカリキュラムの構築を行った。その内容は、「製菓理論」:6時間、「製菓実習」:150時間、「コンピュータ実習」:135時間、「経営実践」60時間、「原価管理」:90時間、「店舗見学」9時間となっている。

◆ テキストの開発・印刷

「製菓実習」および「コンピュータ実習」に係るテキストの開発を行った。製菓実習については毎回のレシピーを中心に、写真を入れることによってできるだけわかりやすく作成した。また、コンピュータ実習については、Word, Excel, Power Point, Internetの4つの分野について作成している。

◆ 実証講座の実施

実証講座は、事業計画に沿って150日間実施された。アンケート結果にも示すように、受講生の評価は総じて高く、将来の起業に向けて非常に有意義な講義であったと思われる。また、副次的成果として事務関係の仕事に対する関心が高まり、進路変更を考える受講生が多かったといえる。

◆ キャリアカウンセリングの実施

受講生に対して個人別のキャリアカウンセリングを実施することにより、これまで定職に就くことのなかった大部分の受講生達が、正社員としての就職活動に意欲的に取り組む姿勢が見られるようになった。また、起業希望の受講生は、その実現のためにさらなる努力をするようになった。

③今後の活用

本事業において開発されたプログラムは、平成21年度よりセミナーとして開講することを予定している。通常、1年ないし2年間で学ぶ製菓実習プログラムを短期間で経営の知識やPCの知識と合わせて勉強することは、より多くの高度な専門知識と技術を持った受講生を社会に送り出すこととなり、専修学校が担う社会的使命を果たすものであると考えている。また、本事業において開発した教材は、その内容をさらに精査することによって関西健康・製菓専門学校製菓実習公式テキストとして専門課程やセミナー生に対して有効に活用していく予定である。

④次年度以降における課題と展開

今回開発したプログラムは、スイーツショップ起業希望者ではあるが、これまでまったく製菓に関する実務経験のない受講生を前提にカリキュラムを構築した。次年度以降は、実際にスイーツショップを運営している経営者を対象に、あるいはこれまでスイーツショップやベーカリーショップなどで一定の期間働いた経験のある者に対して、より実践的な教育を実施できないかと考えている。たとえば製菓では、季節の果物を利用したケーキやイベント的なケーキなど販売促進戦略とマッチしたケーキの企画など、基礎的な製菓技術ではなく経営戦略と結びついたケーキ作りなども考えられるのではないかとと思われる。当然経営実践の講義では、受講生の持ち寄った経験に基づく事例を教材として、グループディスカッションによる課題研究を実施しても面白いのではないかと考えている。

3. 事業の実施に関する項目

①履修証明書等

本事業は、150日間、合計450時間にも及ぶスイーツショップ起業希望者に対する支援プログラムである。受講生は、17名が入校し、就職の決定に伴い2名が途中退校したが、残りの15名については、全教育課程を履修して無事に修了された。修了にあたっては全体での卒業制作を行い、その技術の習熟度を確認することとした。修了式では、修了生15名に対して関西健康・製菓専門学校独自の修了証書を発行している。なお、本修了証書は学校教育法上の履修証明書とはされないが、修了生各自の知識と技術の習熟度は一定以上のレベルに達しており、就職において当該プログラムを修了したことを、その就職先において高く評価いただけるのではないかと考えている。

②カリキュラムの内容

開発されたプログラムは、「製菓理論と製菓実習」、「コンピュータ実習」、「経営実践と原価管理」の3つの分野に関する内容となっている。製菓理論と製菓実習では、製菓に必要な調理器具の説明から始まり衛生に関する知識、洋菓子・パンの製作までスイーツショップ起業に必要な知識を初心者にもわかりやすく基礎から学ぶことができるカリキュラムとなっている。また、店舗見学の時間を利用して、実際に洋菓子店やホテルの製菓部門を見学することにより、実務における苦労話なども聞くことができ、将来起業家をめざす受講生には参考になったのではないかと考えている。またコンピュータ実習では、WordやExcelの操作を基礎から学び、ショップ経営において必要と思われる機能を十分に使いこなすことができるだけの能力を身につけることができたのではないかと考えている。さらにHomePageに関する知識を身につけることによって、実際に店舗を運営するときに広報戦略に役立てることができるのではないかとと思われる。最後に経営実践と原価管理の講義では、価格戦略・製品戦略・経路戦略・販売促進戦略のマーケティングミックスの考え方にもとづいてマーケティング戦略の基礎を勉強した。講義では実際に実務であったケースを用いてわかりやすく説明した結果、大変勉強になったとの評価を受講生からいただいている。そして簿記に関する講義では、受講生の希望もあり日本商工会議所主催簿記検定試験3級の受験に向けての勉強も取り入れた結果、受験者の中から合格者を輩出することもできた。

③講座の実施

実証講座は8月19日に開講され、2月27日までの150日間で実施された。受講生は当初17名が入校したが、就職決定に伴い2名が退校し、15名の修了生を送り出している。修了生の内訳は、(性別)男性1名・女性14名、(年齢別)20代5名・30代6名・40代4名であった。受講生のほとんどが大阪市内からの通学であったが、交通の便の良い兵庫県からも1名の修了者がでている。講座受講に対する修了生の反応であるが、アンケート調査の結果によれば、大変満足であったとの回答が13名、満足であったとの回答が2名であり、非常にたか評価を受けたのではないかと考えている。受講生の中には、当初はスイーツショップ起業希望であったが、簿記や経営の講義を受講するに従い、事務の仕事に興味を持ち、事務職としての就職内定をもらうなど、想定外の効果が生まれたのも本講座の特徴である。

④支援対象者(受講者)の状況

修了生15名は、これまで正社員としての勤務経験がなく、アルバイトなどによって生計を立てていた者がほとんどである。本事業では教育の実施だけでなく、就職活動に対するキャリアカウンセリングを同時に実施することにより受講生たちの就職支援を行うことについてもその目的のひとつとしていた。受講期間が150日間という長期間に及んでいたため、受講期間中については昼間にアルバイトを行い、夜間に本事業を受講するという生活を行っていたようである。しかしながらアルバイト先については、本事業の受講によってスイーツショップやベーカリーショップへの関心が高まった結果、5名の受講生が将来の起業を夢見て、当該業界での仕事をするようになった。卒業後の就職に向けてであるが、講座修了前1ヶ月については、今回のプログラムで身につけた知識を生かすべく、熱心に就職活動を行っていた。結果、簿記や経営の講義を受講することによって事務の仕事に興味を持ち進路変更を図った者を含めて、すべての受講生が何らかの仕事に従事することとなった。